

障害事業所職員向け

ネット研修が好評

不安解消し離職防止へ

東京都

人材開発機構（東京都新宿区）は障害事業所の職員を対象にしたオンライン研修講座を行っている。2016年に開始したサポートターズカレッジは、障害特性や福祉制度、リスクマネジメントなどの講座をスマートフォンなどでいつでも受講できる。月1回、事例検討を行う「Liveセミ」も開いており、好評だという。

A group of four people are gathered around a white conference table in a modern office environment. On the left, a man wearing glasses and a dark jacket is looking down at some papers on the table. Next to him, another man in a black jacket is also focused on the documents. In the center, a laptop is open, displaying a blue screen. To the right, a woman in a dark blazer is seated at a desk with a computer monitor showing a video call. A third person's head is partially visible on the far right. The table is cluttered with various items, including a small yellow mug, a smartphone, and a pink rectangular object. The background shows office equipment and shelves.

ゼミの様子。左奥が伊藤理事長、左前が武田ディレクター

彦・社会福祉法人江東楓の会理事長がこう問い合わせると、モニター越しに受講生らは「うん」「うなつた」などの返答が飛ぶ。日受講していたのは、社会福祉法人春濤会（千葉）、NPO法人ラ・メール（東京）、同ひまわり（同）、同滋賀県社会就労事業振興センターの職員など10人に上る。

まずは、利用者や支援者の気持ちを議論。その上で、施設としてどうすべきかを考えた。

ある受講者は「攻撃されれる職員はモチベーションが下がる。無理せず交代させた方がいい」と主張。「第三者に入つてもいい」とも「大事ではないか」との意見も出た。

伊藤理事長は自身の体験も紹介。「人と人との相性もある。なぜ攻撃してしまったかを考え支援する」とも必要だが、施設全体として職員をケアすることは大事」などと話す、「この日は終了した。

サボカラの講座は、スマホやタブレットを使えば、いつでもどこでも受講できるのが特長だ。さまざまな障害特性のほか、事故報告書の書き方、虐待防止の仕組みづくりなどが毎週配信され、現在100本以上ある。講師は実際の支援現場を熟知する実務経験者数人が務める。

サボカラディレクトの武田昌明さんは、「日々忙しい職員に配慮して、1本当たり15

エリア情報

分程度に編集しているのがポイント。法人にとっては、職員研修の資料作りの手間も省けると好評です」と話す。現在全国の60事業所が利用している。

年間利用料は1法人当たり15万円で、何人でも受講できる。

同機構の水谷正夫理事長は「小規模の事業所にどうしては、なかなか職員を研修に出す余裕もないのが実状。サポートを通じて、職安が解消され、安が支援の質向止と支援の質向話をしている。